

# 診療所だより



## 人工哺乳による 子牛の育成

和牛から出生した子牛は、ほとんど親に付けて育てられるが、多頭飼育になり分娩室が足りなかったり様々な事情により当管内でも人工哺乳する農家が増えていきます。今回は人工哺乳による子牛の管理や発生しやすい病気について説明します。

### ①初乳の給与

初乳は出生後できるだけ早く(30分〜4時間以内)充分な量を給与します。それにより胎便の排出が早まり、移行抗体(病気に対する免疫)を多く吸収できるため子牛の成長が順調になります。

### ②代用乳への切り替え

初乳の給与後は代用乳(みるくん)に切り替えます。代用乳は150g〜300gを朝晩2回、もしくは昼を加えた3回給与します。加えるお湯の量は、6倍で哺乳ビンで与えます。(写真右上)

### ③初期の飼料給与

生後一週間目よりスターター(モーレットなど)と乾草と水を不断給与します。

### ④離乳

離乳の目安はスターターの採食量が一日1kgとなった時で、概ね2ヶ月半位で離乳しますが、子牛には個体差があり生時体重やスターターや乾草などの採食量などを考慮する必要があります。離乳後は普通に飼育管理をすればいいわけです。

### ⑤哺乳中に起こりやすい病気について

#### 〈下痢症〉

哺乳期には下痢症が最も発生しやすいその原因としては、ウィルスや細菌(大腸菌が多い)、寄生虫(コクシジウムや乳頭糞線虫)の感染によるものと、飼料の給与と不適切なことから発生する機能障害によるものがあります。獣医師の治療を早く受けることが大切ですが、敷き料の交換や保温及び牛床の乾燥と消毒を繰り返すことも重要です。

#### 〈第四胃食滞〉

この病気は、第四胃が拡張し水状の食塊とガスが貯まる病気で、下腹部が拡張した第四胃で膨隆し、採食後力スの発生が顕著になります。原因は、乳の多給と粗剛粗飼料の給与によることが多く、放っておくと発育不良となることがあります。

人工哺乳は親に付けて育てる方法に比べ人為的な影響を受け易い分、子牛が人に慣れたりエサの食い込みが良いなどの利点もあります。また、哺乳させること自体はそれほど難しいものではありませんので、何かの時の参考にして下さい。